

1950 - 70 年代台湾の三毫子小説（小説報）

村 上 公 一

0. はじめに

1950 年代から 70 年代にかけて、香港では 1 冊にひとつの小説のみを掲載した小説雑誌（小説報）が大量に発行された。価格が 1 冊 3 角（3 毫子）であったことから三毫子小説とも呼ばれている。週刊、隔週刊、半月刊、月刊等、定期的に発行される点では新聞、雑誌に近いが、1 冊にひとつの小説しか掲載しない点は、記事の一部として小説が連載される新聞や一般雑誌、複数の小説が掲載される小説雑誌とは異なり、単行本に近い。小説報は紙版やページ数が固定されており、当初はタブロイド判 12 ページが主流であったが、60 年代に入り B 6 版 50 ～ 60 ページに変更されている。また内容も恋愛をテーマとした小説が圧倒的割合を占め、その結果ほぼ同じ長さの類似したテーマの小説が大量に供給されることになった。代表的な三毫子小説には、環球圖書雑誌会社の『小説叢』シリーズ虹霓出版社の『小説報』シリーズなどがある。これら小説報は大衆読物に飢えていた香港の一般庶民に大いに受け入れられ、数多くの作品がラジオ小説化され、また映画化されている。¹⁾

これら香港版の小説報は同時期の台湾に大量に流入した。時を経ずして台湾版の小説報も発行され始め、台湾でも小説報の大流行を迎えることになった。台湾での小説報発行の様子は、瓊瑤が『煙雨濛濛』（1964 年）で主人公の目を通して非常にリアルに描き出している。『煙雨濛濛』では否定的に描かれている小説報だが、小説報の流行による通俗（恋愛）小説読者の大量発生が瓊瑤の小説の流行を支えたとも言える。²⁾

台湾では 1970 年代後半から単行貸本小説が量産されるようになり、これら小説報は徐々に消滅していくことになったが、1950 年代から 70 年代にかけの通俗文学の流行を担った重要なメディアであったことは間違いない。

小説報は通俗的読物であり、また小冊子であることから、既に多くが散逸してしまっており、その全貌を確認することはできない。筆者は 2002 年の台北での在外研究以来、意

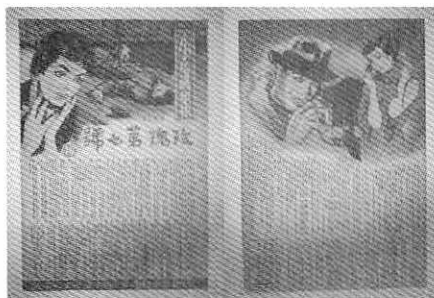
識的に小説報を集めてきたが、現時点で手元にあるのは196種（重複本も含め204冊）、いずれも台湾の古書店で入手したものである。³⁾

以下タブロイド判とB6版に大きく分け、それぞれ若干の説明を加えながら紹介する。

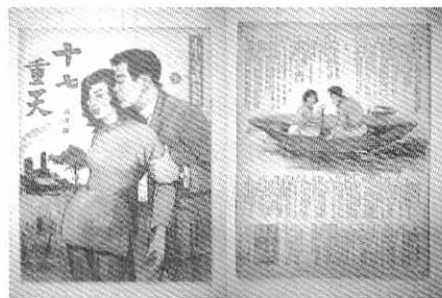
1. タブロイド判小説報

1.1. 虹霓出版社の『小説報』シリーズ

虹霓出版社は大陸時代に国民党の立法委員だった梁寒操の夫人黎劍虹が米国情報文化局の援助を受けて香港で創設した出版社である。⁴⁾ 主なテーマは反共+恋愛であり、大陸を舞台にした作品や反共スパイ活動を扱った作品も少なくない。いずれも表紙を入れて12ページ。初期のものは表紙の一部に絵が描かれていたが、徐々に絵のスペースが大きくなり、最終的には表紙は全面に絵が描かれ、小説本文は裏面から始まる形になった。



001「玫瑰第七號」(梁泰炎、『小説報』7)



060「十七重天」(簡又陵、『小説報』131)

価格は港幣3角、新台幣1元5角であり、台湾では童年書店が代理店となっていたが、第130期からは香港虹霓雜誌出版社（台北市重慶南路）が台湾での代理発行者となっている。

001「玫瑰第七號」(梁泰炎、『小説報』7)

002「慾海情魔」(俊人、『小説報』8)

003「烽火漁舟」(萬方、『小説報』9)

004「霧綠」(鄭慧、『小説報』11)

005「死亡谷」(盧森堡、『小説報』12)

006「叛徒」(萬方、『小説報』13)

- 007「龍鳳配」(俊人、『小説報』14、1956年1月5日)
- 008「銀色之戀」(上官寶倫、『小説報』17)
- 009「私梟紅粉」(費明、『小説報』18、1956年3月31日)
- 010「生死邊緣」(萬方、『小説報』19、1956年4月15日)
- 011「金冠記」(易君左、『小説報』20、1956年5月5日)
- 012「空中小姐」(俊人、『小説報』21、1956年5月25日)
- 013「蜜月劫」(喬又陵、『小説報』22、1956年6月15日)
- 014「白衣姑娘」(鄭慧、『小説報』23、1956年7月5日)
- 015「疑團」(言再啟、『小説報』24、1956年7月20日)
- 016「陷穽」(上官寶倫、『小説報』25、1956年8月15日)
- 017「藍衣人」(董千里、『小説報』26、1956年9月5日)
- 018「東京間諜網」(俊人、『小説報』27、1956年9月25日)
- 019「禁嚮」(齊桓、『小説報』28、1956年10月15日)
- 020「神之秘火」(路明、『小説報』29、1956年11月5日)
- 021「第三夢」(上官寶倫、『小説報』30、1956年11月25日)
- 022「私戀」(李維陵、『小説報』31、1956年12月10日)
- 023「危城記」(萬方、『小説報』32、1956年12月25日)
- 024「密碼追踪」(盧森堡、『小説報』33、1957年1月10日)
- 025「雲娘」(董千里、『小説報』34、1957年1月24日)
- 026「紅樓怨」(言再啟、『小説報』35、1957年2月8日)
- 027「星加坡故事」(劉以鬯、『小説報』36、1957年2月21日)
- 028「虎穴」(齊桓、『小説報』38、1957年3月21日)
- 029「萍水緣」(南宮搏、『小説報』39、1957年4月5日)
- 030「屍之謎」(龍驤、『小説報』40、1957年4月18日)
- 031「魔接吻」(歐陽天、『小説報』41、1957年5月2日)
- 032「假鳳凰」(齊桓、『小説報』42、1957年5月16日)
- 033「夜深沉」(董千里、『小説報』43、1957年5月30日)
- 034「婆羅洲之鯊」(孟白蘭、『小説報』44、1957年6月13日)
- 035「紅燈」(李維陵、『小説報』45、1957年6月27日)
- 036「飛渡關山」(夏侯無忌、『小説報』46、1957年7月11日)

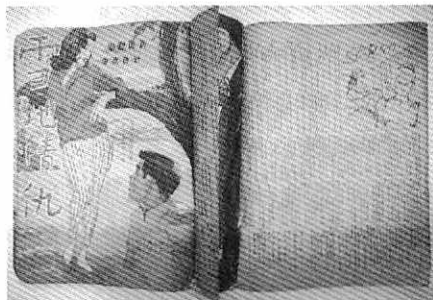
- 037「神秘病人」(齊桓、『小説報』48、1957年8月8日)
038「遊艇擒兇」(費明、『小説報』49、1957年8月22日)
039「山盟」(言再啟、『小説報』51、1957年9月19日)
040「逃婚記」(吳成文、『小説報』52、1957年10月3日)
041「密件」(歐陽天、『小説報』54、1957年10月31日)
042「叛徒喋血」(盧森堡、『小説報』55、1957年11月14日)
043「百花殘」(喬又陵、『小説報』56、1957年11月28日)
044「塞上風雲」(丁虹、『小説報』57、1957年12月12日)
045「重逢有日」(俊人、『小説報』58、1957年12月26日)
046「逝者如斯」(俊人、『小説報』108、1959年11月28日)
047「蠻荒天使」(漢生、『小説報』109、1959年12月11日)
048「十九歲」(喬又陵、『小説報』110、1959年12月25日)
049「帝苑春深」(齊桓、『小説報』111、1960年1月8日)
050「東方小姐」(戴偉、『小説報』112、1960年1月22日)
051「雪裡紅」(丁虹、『小説報』113、1960年2月5日)
052「沉思中的罪人」(羅繆、『小説報』117、1960年4月1日)
053「人之初」(董千里、『小説報』121、1960年5月27日)
054「舐犢情深」(林適存、『小説報』124、1960年7月8日)
055「一段情」(丁虹、『小説報』125、1960年7月22日)
056「奇特的遺言」(林婷、『小説報』126、1960年8月5日)
057「洪水緣」(漢生、『小説報』128、1960年9月2日)
058「尋夢記」(費明、『小説報』129、1960年9月16日)
059「陌生的新娘」(潘柳黛、『小説報』130、1960年10月12日)
060「十七重天」(喬又陵、『小説報』131、1960年11月12日)

1. 2. 台湾発行のタブロイド判小説報

台湾でもタブロイド判の小説報が複数の出版社から発行されている。台湾の小説報はいずれも表紙を入れて10ページ。価格は『小説報』と同じ1.5元。手元にあるものは全て、表紙は全面に絵が描かれ、小説本文は裏面から始まっている。



061「血紙人」(龍謨、『小説林』1)



069「雪地情仇」(『新聞觀察』新一卷十期)

『小説叢』(『小説選』)『新聞觀察』『電影圈』『婦女俱樂部』『文藝沙龍』は発行元がそれぞれ別の出版社となっているが、社屋の住所はいずれも同じであり、実質的に同一の母体から出版されたものである。

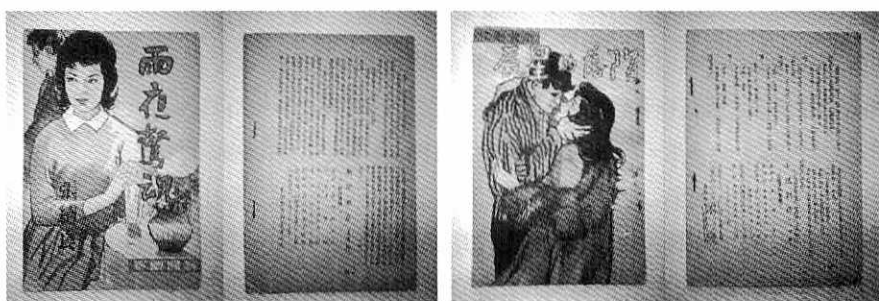
- 061「血紙人」(龍謨、『小説林』1、1957年9月1日、文藝天地社)
- 062「怪手案」(——、『小説林』2、1958年1月15日、文藝天地社)
- 063「飛屍記」(——、『立志小説選』1、立志出版社)
- 064「亂世香魂(海角香魂)」(鳳兮、『小説叢』2、1958年、——25日、小説世界社)
- 065「烽火姻緣」(漢生/萬方、『小説叢』3、1958年6月10日、小説世界社)
- 066「妾意如綿」(戴偉、『小説叢』5、1958年7月15日、小説世界社)
- 067「客串丈夫」(梁楓/薛歌、『小説選』2、1958年6月15日、小説世界社)
- 068「春歸夢裡人」(——、『小説選』4、1958年7月15日、小説世界社)
- 069「雪地情仇」(——、『新聞觀察』新一卷十期、1959年10月10日、新聞觀察社)
- 070「蓓蓮姊妹」(——、『新聞觀察』新二卷一期、1960年1月1日、新聞觀察社)
- 071「暴風雨之夜」(——、『新聞觀察』新二卷六期、1960年4月20日、新聞觀察社)
- 072「不了情」(——、『新聞觀察』新二卷七期、1960年5月20日、新聞觀察社)
- 073「女歌手私記」(——、『新聞觀察』新二卷八期、1960年6月5日、新聞觀察社)
- 074「紅繡鞋」(——、『新聞觀察』新三卷三期、1960年12月30日、新聞觀察社)
- 075「如花美眷」(潘柳黛、『新聞觀察』第十二年新五期、1962年3月31日、新聞觀察社)
- 076「愛情的懸崖」(歐陽天、『新聞觀察』第十二年新六期、1962年4月31日、新聞觀察社)
- 077「聖院鐘聲」(羅馬、『新聞觀察』第十二年新七期、1962年5日、新聞觀察社)

- 078「日落近黄昏」(——、『電影圈』二月號、1960年2月29日)
 079「青春戀」(——、『婦女俱樂部』64、1962年3月30日、婦女俱樂部社)
 080「福慧雙修」(楊天成、『婦女俱樂部』65、1962年4月30日、婦女俱樂部社)
 081「自由戀愛」(鄭慧、『文藝沙龍』32、1962年4月19日)
 082「沙上戀情」(依達、『文藝沙龍』33、1962年5月25日)
 083「孤雛血淚」(庚金、『文藝沙龍』34、1962年6月25日)

2. B 6版小説報

2. 1. 台湾発行タブロイド判小説報からの移行シリーズ

タブロイド判の小説報はその後、B 6版に移行していく。『新聞觀察』『電影圈』『文藝沙龍』は1962年にB 6版への移行が行われている。『小説創作』には出版社名が記されていないが、発行所の住所は上記3種の出版元と同じであり、同一の母体から出版されたものである。価格は全て2元となっている。いずれも表紙を入れて50ページ。裏表紙は付けられていない。



084「雨夜驚魂」(張續良、『新聞觀察』十二月號)

090「隕落的星辰」(『小説創作』八月號)

- 084「雨夜驚魂」(張續良、『新聞觀察』十二月號、1962年12月30日、新聞觀察社)
 085「落了的櫻花」(——、『新聞觀察』三月號、1963年3月30日、新聞觀察社)
 086「魔鬼與天使」(——、『電影圈』十月號、1962年10月30日)
 087「牆頭草」(王俊、『電影圈』七月號、1963年7月28日)
 088「落日」(——、『文藝沙龍』十月號、1962年10月30日)
 089「葡萄棚下」(俊人、『文藝沙龍』八月號、1963年8月30日)
 090「隕落的星辰」(——、『小説創作』八月號、1962年8月30日)

2. 2. 『環球文藝』とその台湾発行版

環球圖書雜誌公司の『小説叢』シリーズは1961年にB 6版化が行われていたが、台湾では呂氏書店が代理発行していた。その後、呂氏書店では『春秋文藝』という名称で『環球文藝』のリプリント版を発行するようになる。



091「我的太陽」(岑凱倫、『環球文藝(袖珍小説)』159)



092「瞬」(依達、『春秋文藝』)

いずれも裏表紙が付いている。ページ数は、091～093のみ表紙、裏表紙を含めず64ページ、094以降は48ページとなっている。他の出版社のB 6版小説報も同様である。価格は091～115が5元、116～123が6元、124・125が8元、126・127が10元。10年間で価格が倍増している。他の出版社でもほぼ同様の価格の推移が見られる。

091「我的太陽」(岑凱倫、『環球文藝(袖珍小説)』159、環球出版社)

092「瞬」(依達、『春秋文藝』、1971年11月19日、春秋文藝雜誌社)

093「藍」(汎亞、『春秋文藝』41、1972年10月28日、春秋文藝雜誌社)

094「鵲啼月落」(嚴沁、『春秋文藝』、1973年4月、春秋文藝雜誌社)

095「海灘陌生人」(嚴沁、『春秋文藝』、1973年4月、春秋文藝雜誌社)

096「青藤絲」(嚴沁、『春秋文藝』69、1973年11月1日、春秋文藝雜誌社)

097「纖影寂寂」(嚴沁、『春秋文藝』、1973年11月15日、春秋文藝雜誌社)

098「午夜結他」(嚴沁、『春秋文藝』74、(破損)、春秋文藝雜誌社)

099「在那海邊」(依達、『春秋文藝』81、1974年1月24日、春秋文藝雜誌社)

100「白石階」(汎迪/汎亞、『春秋文藝』、春秋文藝雜誌社)

101「記得那天」(紫華、『春秋文藝』、1974年7月5日、春秋出版社)

102「肖像」(嚴沁、『春秋文藝』、春秋出版社)

- 103「早晨再見」(依達、『春秋文藝』、春秋出版社)
- 104「早晨再見續集」(依達、『春秋文藝』、春秋出版社)
- 105「街燈」(依達、『春秋文藝』、春秋出版社)
- 106「當你離去後」(朱秀娟、『春秋文藝』、春秋出版社)
- 107「渺渺情」(嚴沁、『春秋文藝』、1974年10月、春秋出版社)
- 108「大情人」(嚴沁、『春秋文藝』、1974年10月、春秋出版社)
- 109「沙灘對岸」(依達、『春秋文藝』、1975年春季、春秋出版社)
- 110「擒狼記」(嚴沁、『春秋文藝』、1975年7月、春秋出版社)
- 111「無情谷」(嚴沁、『春秋文藝』、(破損))
- 112「慾潮」(嚴沁、『春秋文藝』、1976年夏季、春秋出版社)
- 113「妙夫妻」(岑凱倫、『春秋文藝』、1976年夏季、春秋出版社)
- 114「失落」(依達、『春秋文藝』、1976年夏季、春秋出版社)
- 115「禁地風光」(婉君、『春秋文藝』、1978年7月、春秋出版社)
- 116「消逝的彩虹」(依達、『春秋文藝』、1978年11月、春秋出版社)
- 117「夢戀」(嚴沁、『春秋文藝』250、1978年12月、春秋出版社)
- 118「啟示」(嚴沁、『春秋文藝』、1978年12月、春秋出版社)
- 119「碧海絃歌」(嚴沁、『春秋文藝』、1978年12月、春秋出版社)
- 120「夜合花」(嚴沁、『春秋文藝』、1979年4月、春秋出版社)
- 121「愛思」(依達、『春秋文藝』、1979年4月、春秋出版社)
- 122「青蘋果」(嚴沁、『春秋文藝』、1979年4月、春秋出版社)
- 123「三姊妹」(憶楓、『春秋文藝』、1979年11月、春秋出版社)
- 124「往事似雲烟」(岑凱倫、『春秋文藝』、1980年4月、春秋出版社)
- 125「最後的華爾滋」(依達、『春秋文藝』、1980年6月、春秋出版社)
- 126「後園之春」(依達、『春秋文藝』、1980年11月、春秋出版社)
- 127「夢幻情天」(嚴沁、『春秋文藝』、1982年11月、春秋出版社)

またほぼ同時期に環怡出版社から『環怡文藝』という名称のリプリント版も発行されている。しかし、これらのシリーズは全てがリプリント版というわけではなく、台湾作家の作品や読者投稿作品なども掲載されている。



127「夢幻情天」(嚴沁、《春秋文藝》)



128「夢幻情天」(嚴沁、《環怡文藝》211)

- 128「夢幻情天」(嚴沁、《環怡文藝》211、1975年12月25日、環怡出版社)
- 129「渺渺情」(嚴沁、《環怡文藝》238、1976年5月10日、環怡出版社)
- 130「短雨」(黃廣基、《環怡文藝》369、環怡出版社)
- 131「靜聽寂寞」(嚴沁、《環怡文藝》382、環怡出版社)
- 132「呆坐石階」(米娜、《環怡文藝》384、環怡出版社)
- 133「歌者·櫻魂」(田塵、《環怡文藝》410、1976年1月10日、環怡出版社)
- 134「無語亦情牽」(嚴沁、《環怡文藝》435、1976年9月15日、環怡出版社)
- 135「萍踪處處」(田塵、《環怡文藝》465、1977年5月30日、環怡出版社)
- 136「只是烟雲」(嚴沁、《環怡文藝》497、1978年2月5日、環怡出版社)
- 137「縱然是歌」(依達、《環怡文藝》499、1978年2月5日、環怡出版社)
- 138「冬雨」(畢凡、《環怡文藝》501、1978年2月5日、環怡出版社)
- 139「露從今夜白」(譚莊、《環怡文藝》511、1978年10月5日、環怡出版社)
- 140「又一星辰」(嚴沁、《環怡文藝》517、1978年10月20日、環怡出版社)
- 141「愁眸幽幽」(依達、《環怡文藝》530、1978年11月25日、環怡出版社)
- 142「明年明日」(逸名、《環怡文藝》535、1979年3月5日、環怡出版社)
- 143「夜荊草」(依達、《環怡文藝》536、1979年3月10日、環怡出版社)
- 144「輕烟之秋」(依達、《環怡文藝》547、1979年4月15日、環怡出版社)
- 145「最後丁香」(依達、《環怡文藝》555、1979年5月5日、環怡出版社)
- 146「再歌」(林可風、《環怡文藝》566、1979年8月10日、環怡出版社)
- 147「四月陽光」(雨萍、《環怡文藝》570、1980年1月5日、環怡出版社)
- 148「我要天上星」(岑凱倫、《環怡文藝》573、1980年1月5日、環怡出版社)

149「悔到如今」(塵田、『環怡文藝』581、1980年1月5日、環怡出版社)

150「捲起星塵」(風可林、『環怡文藝』596、1980年7月25日、環怡出版社)

2. 3. 『小説報』の台湾発行版

虹霓出版社のタブロイド判『小説報』をそのままB6サイズに編集し直したものが有志出版社から出版されている。他のB6版小説報と同じく本文は2段組みになっているが、156のみが1段になっている。



151「幽霊」(俊人、『小説報』)

151「幽霊」(俊人、『小説報』、1971年5月、有志圖書出版公司)

152「稚情」(嚴沁、『小説報』、1974年5月、有志圖書出版公司)

153「隕落」(嚴沁、『小説報』、有志圖書出版公司)

154「抉擇」(依達、『小説報』、有志圖書出版公司)

155「星夢」(依達、『小説報』、有志圖書出版公司)

156「灰色之戀」(依達、『小説報』、有志圖書出版公司)

157「情海」(言再啟、『小説報』、有志圖書出版公司)

158「午夜恐怖列車」(古月寒、『小説報』、有志圖書出版公司)

2. 4. 開元書店の小説報

開元書店は主に貸本屋向けの書籍の販売を手掛ける、比較的規模の大きな中継ぎ書店である。様々な出版社の書物がこれら中継ぎ書店を通じて個人や末端の貸本屋に販売される。開元書店ではさらに、独自の作品シリーズを作り、取引先の出版社に作品シリーズを分担出版させている。開元書店の小説報も複数の出版社から出版されているが、形式はほぼ同一であり、掲載されている広告も出版社の広告ではなく、開元書店のものである。



159「杜鵑盛開時」(嚴沁、《開元文藝·言情小說》)



176「銀虹夜總會」(帥羽、《開元偵探門智小說》)

- 159「杜鵑盛開時」(嚴沁、《開元文藝·言情小說》、1978年秋季、龍泉出版社)
- 160「古墓」(鬼谷子、《開元文藝·言情小說》、1979年春季、世新出版社)
- 161「蝶戀花」(玄小偉、《開元文藝·言情小說》、1979年8月、瑞德出版社)
- 162「女舍風光」(金娃、《開元文藝·言情小說》、1979年8月、瑞德出版社)
- 163「愛似風雨」(田露、《開元文藝·言情小說》、1982年8月、瑞德出版社)
- 164「彩色的女孩」(朱娣、《開元傳真／寫實小說》、1979年春季、龍泉出版社)
- 165「軟腳仔」(朱娣、《開元傳真／寫實小說》、1979年春季、龍泉出版社)
- 166「春宵一刻」(林春、《開元傳真／寫實小說》、1979年春季、龍泉出版社)
- 167「玉女嬉春」(憶菁、《社會寫實奇情小說》、1980年5月、瑞德出版社)
- 168「香閨情魂」(嚴瓊、《開元聊齋·鬼狐奇譚》、1978年春季、金蘭文化出版社)
- 169「很屍碎」(鬼谷子、《開元聊齋·鬼狐奇譚》、1978年夏季、世新出版社)
- 170「紅狐」(古月寒、《開元聊齋·鬼狐奇譚》、1978年冬季、世新出版社)
- 171「幽魂報仇」(鬼谷子、《開元聊齋·鬼狐奇譚》、1979年春季、龍泉出版社)
- 172「九命魔貓」(天狐、《開元聊齋·鬼狐奇譚》、1979年8月、瑞德出版社)
- 173「月沉魅影」(朱陽、《鬼狐奇幻小說》、1979年8月、瑞德出版社)
- 174「離魂吟」(朱陽、《鬼狐小說》、1980年5月、瑞德出版社)
- 175「女兒國」(鬼谷子、《鬼狐小說》、1981年5月、瑞德出版社)
- 176「銀虹夜總會」(帥羽、《開元偵探門智小說》、1980年5月、瑞德出版社)

2.5. その他

その他にも様々な出版社が台湾各地で小説報を発行している。また小説報の出版社、中継ぎ書店には開元書店と同じように主に貸本を扱っているところが多い。例えば『環怡文藝』の第570期以降の中継ぎ書店は、古龍や玄小佛を擁し貸本出版に革命をもたらした漢麟圖書有限公司である。また武侠小说出版の大手である南琪出版社も、『南琪文藝(叢書)』シリーズを出している。⁵⁷



190「情人橋」(楊子崴、『南琪文藝(叢書)』)

- 177「無語問蒼天」(葉楓、『銀星小說選』116、1973年、銀星出版社)
- 178「這一個家」(章學源、『銀星小說選』117、1973年、銀星出版社)
- 179「苦情花」(綠沙、『銀星小說選』122、1973年、銀星出版社)
- 180「愛之旅」(嚴沁、『銀星小說選』128、1974年、銀星出版社)
- 181「火中蓮」(宇張、『銀星小說選』131、1974年、銀星出版社)
- 182「前程似錦」(依達、『銀星小說選』145、1975年、銀星出版社)
- 183「難忘今宵」(依達、『銀星小說選』153、1976年、銀星出版社)
- 184「雨濛濛」(莫愁、『銀星小說選』、(破損))
- 185「紫夢」(梁荔玲、『銀星小說選』109、1978(再版)、銀星出版社)
- 186「往事那堪哀」(依達、『銀星小說選』197、1980(再版)、銀星出版社)
- 187「愛情三部曲」(嚴沁、『大東方小說報』、大東方出版公司)
- 188「孤愁難恨」(依達、『大東方小說報』、大東方出版公司)
- 189「兩姊妹」(藍萍、『世新小說報』、1974年、世新出版社)
- 190「情人橋」(楊子崴、『南琪文藝(叢書)』、1974年9月、南琪出版社)
- 191「送別」(亦送、『華源文藝(叢書)』、1974年9月、華源出版社)
- 192「四姨太」(嚴沁、『社會傳真·萬象奇聞』、漢苑出版社)
- 193「歌聲淚」(子凌、『晶晶文藝』、1975年4月10日、新星出版社)
- 194「一個女工」(東哥、『社會傳真·萬象奇聞』、1979年夏、鄉野出版社)

195「夢痕」(曉嵐、『小説天地』、1974年10月、漢牛出版社)

196「金色年華」(凌君、『小説天地』、1974年10月、漢牛出版社)

3. おわりに

以上、筆者の手元にある196種の小説報を簡単に紹介したが、これらの小説報について詳細な書誌情報、小説の概要、初出とリプリントに関する情報等を加えたデータベースを作成し、一般に公開する予定である。手元に小説報をお持ちの方は情報をお寄せいただければ幸いである。

注

- 1) 香港の三毫子小説については許定銘(2011)『醉書札記』(秀威資訊科技)及び許定銘の『大公報』連載中の「醉書亭」の記事(「三毫子小説」2011年4月9日、「從三毫子到四毫」2011年4月23日など)参照。
- 2) 村上公一(2005)「言情・文藝・羅曼史-台湾貸本文化考(2)」(『學術研究・外国語・外国文学編-』53)参照。
- 3) 上記論文にも29種紹介している。
- 4) 梁黎劍虹(1980)『梁寒操與我』(黎明文化事業公司)参照。
- 5) 村上公一(2007)「漫画・武俠・偵探-台湾貸本文化考(3)」(『學術研究・外国語・外国文学編-』55)参照。